

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2013年5月

IEC/TC89 (耐火性試験) キプロス会議

IEC/TC89の国際会議が2012年10月16日～19日、キプロス共和国のレメソスで開催された。参加国は、米国、英国、ドイツ、イタリア等12か国で、総勢24名の参加があった。日本からは、IEC/TC89国内委員会の春原委員（ポリプラスチック(株)）、林委員（(一社)電線総合技術センター）、香月委員（(独)製品評価技術基盤機構）および乾（乾安全規格事務所）の5名が参加した。

会議は、WG11（火災放出物）、WG12（着火と燃焼の広がり）、AG13（TC89戦略）、PT 60695-1-13（製品TCに共通の耐火性クラス分けガイダンス）およびTC89全体会議が行われた。以下、各WGのトピックスをプラスチックに関係のあるテーマを中心に述べる。

1. WG11 会議（燃焼生成物、ガイダンス、用語及び火災安全技術）

(1) IEC 60695-1-12（火災安全工学）

PNW段階に戻り、附属書にロシア規格の火災危険性評価を加える提案があった。

(2) IEC 60695-4（耐火性試験用語）

第4版が5月に発行された。

(3) IEC 60695-8-2（輻射熱試験方法の概要と相関）

PNW段階に戻り、マイクロカロリメータ試験方法（ASTM D7309）が追加されている。

2. WG12 会議（着火と燃焼の広がり）

(1) IEC 60695-2-12（材料のグローワイヤ燃焼性試験方法）および2-13（材料のグローワイヤ着火性試験方法）

FDISで改訂されていなかった部分のAmendmentが出て、投票に回された。

(2) IEC 60695-2-20（ホットワイヤ着火性試験方法）

試験結果のばらつきを低減できなかったため、PWIになり、新たなプロジェクトチームを発足させることになった。

(3) IEC 60695-10-2（ボールプレッシャー試験方法）

CDV投票中で審議はなかったが、発泡材料やフィルム状の薄い材料をどのように計るのかという問題が提起された。

(4) IEC 60695-11-3（500W試験炎および指針）

日本より「JIS改訂作業中にガスの背圧許容差の規定に誤りを見つけた」ことを報告し、UL94（ASTM）と同じ125±25 mm of H₂Oに訂正するAmendment作業を行うことに合意が得られた。

(5) IEC 60695-11-5（ニードルフレイム試験および指針）

使用するガスを1つに限定すべきとの意見が出ている。

(6) IEC TS 60695-11-11（火炎からの熱流束による着火性試験）：本規格は日本提案。

ラウンドロビンテストの結果が出揃うのを待っている段階で、TSのCDVとして進める。

(7) IEC/CD 60695-11-20 (500W 試験炎による燃焼試験)

日本から改良追尾法の CDV 案を提出するよう求められた。

4. その他

PT 60695-1-13 で耐火性クラス分けガイダンス作成は、IEC 60695-2-11 のクラス分け判定に限定する事で議論が締めくくられた。

次回の会議は 2013 年 4 月 22 日～24 日に、ドイツのベルリンで開催される予定である。

報告：日本プラスチック工業連盟
電気材料安全・規格委員会派遣
乾 泰夫（乾安全規格事務所）